

【論 文】

観光資料の韓国語訳における誤訳分析

— 宮城県・岩手県・山形県を中心に —

金 永昊・大坂奈未子・千原 佳穂

I. はじめに

我々は外国旅行をする時、標識や看板などを頼りに目的地へ向かったり、美術館や博物館、寺社などの案内パンフレットを見ることで情報を受け取っている。このような観光資料は、我々が現地を理解するにあたり非常に重要な役割をもつものであるが、時にはその日本語の説明を読んで、戸惑いを感じたことが誰にでもあるのではないだろうか。

それでは立場を変えて考えてみよう。今日、日本を訪れる外国人観光客の数は、JTB 総合研究所の調査¹によると、2010年の約860万人から2011年には東日本大震災の影響で約620万人に減少したものの、その後は年々上昇し続け、2017年には2,800万人を超えている。そのうち、2017年度の韓国人観光客の比率は24.9%で、中国人観光客の25.6%に次いで2位を占めているという。現在、韓国の人口は約5,100万人で、中国は韓国の約28倍の人口であることを勘案すると、どれだけ多くの割合の韓国人が日本を訪れているのかが分かる。また、2020年には東京オリンピックが開催されることで、この先ますます多くの外国人が日本を訪れたり、定住することになるであろうと予想される。

このような状況の中、現在、日本ではあらゆる分野でグローバル化が謳われ、街の至る所で外国語の標識や看板を目にするようになり、観光案内パンフレットも様々な外国語で翻訳されるようになった。しかし、ネイティブスピーカーが読んでも理解できない、あるいは何となく理解はできるものの、明らかに間違った文章や表現・語彙によって戸惑ったり、誤解が生じるような表現はないのだろうか。

本稿は、教養学部言語文化学科の大坂奈未子さん（山形県出身）と千原佳穂さん（岩手県出身）が2018年度に提出した卒業論文の一部を加筆修正したものである。両学生は、大学

¹ <https://www.tourism.jp/tourism-database/stats/inbound/> (検索日：2018.11.16)

で4年間学んだ韓国語を生かし、自分が生まれ育った東北地域の韓国語資料が果たして正しい韓国語で翻訳されているのだろうかという問題意識のもと、少しでも地域発展に寄与したいという思いで、関連資料を収集して分析した。そして、誤訳があった場合にはその問題点を指摘し、それがいかなる原因によって生じたかについて考え、改善案を提示した。論文とは、別の人が同じ方法論で検証した時、同じ結論が出なければならない、というのは絶対的で最も基本的な条件である。したがって、本稿では止むを得ず多数の実名を挙げることになったが、本稿を通してより多くの韓国人が東北地域を正しく、そして深く理解するためのきっかけになることを願いたい。

II. 地名・人名などの固有名詞と韓国語表記法

例えば、「福島」は「Fukushima」と「Hukushima」、そして「Fukusima」のうち、どのように表記すべきであろうか。「は」行の場合、「は」「ひ」「へ」「ほ」は「ha」「hi」「he」「ho」のように子音を「h」で表記するため、「ふ」も「hu」で表記すべきであろうか。また、「さ」行の「さ」「す」「せ」「そ」はそれぞれ「sa」「su」「se」「so」で表記するため、「し」も「si」で表記すべきであろうか。日本語をローマ字で表記する際には、ヘボン式表記法が使われている。したがって、「は」行のうち「ふ」だけは「hu」ではなく「fu」で、「さ」行のうち「し」だけは「shi」で表記するという決まりがある。したがって、「福島」は「Fukushima」で表記することが一応のルールとなっており、「Hukushima」や「Fukusima」のように不正確な表記になっている場合、それがどれだけ重要な情報であってもインターネット上ではヒットしない可能性がある。

同じように日本語を韓国語で表記する際には、韓国の国立国語研究院では韓国語表記法を定め、それに沿って表記することとしている。しかし、今回調べた資料では、韓国語表記法が忠実に反映された資料はほとんど見当たらなかった。例えば「福島」を「Hukushima」や「Fukusima」のように表記したとしても、それは訳者が何らかの意図を持ってそうしたもので、そこに一貫性が見られれば、まだいいほうだ。ところが、一つの資料の中でも「Fukushima」「Hukushima」「Fukusima」のように表記が一定せず乱れていれば、外国人はばらばらに表記された「福島」を、それぞれ別々の場所として誤解してしまう可能性があることを指摘したい。

下に挙げるのは、松島海岸駅前の看板の一部である。「松島」の部分が、「五大堂」では「마쓰시마」と表記されているのに対して、「牡蠣祭り」では「마쯔시마」と表記されている。もちろん、韓国語表記法では「つ」の発音を「쓰」で表記するという決まりがあるため、

「마쓰시마」と表記すべきである。このように一つの看板で「마쓰시마」「마츠시마」と表記が統一されていないと、韓国人観光客は別の場所であると勘違いをするおそれがある。

その他、韓国語表記法通りになっていない例をいくつか挙げてみよう。韓国語は、「た」行と「か」行は語頭に位置する時と、語中・語末に位置する時では表記の仕方が異なるという決まりがある。また、「東北（とうほく）」は「toughoku」ではなく「tohoku」と表記するように、韓国語も長音は表記しない。したがって、「東北（とうほく）」は、「도호쿠」と書かなければならないが、「도호쿠」「도우호쿠」「투호쿠」などと表記が一定せず、ひいては一つの資料の中でも「도호쿠」と「투호쿠」が一緒に使われているケースが非常に多くあった。

また、寺社や川、橋などは、意味が重複してもそれが寺社・川・橋であることが分かるようにも一度韓国語で表記しなければならないという決まりがある。例えば、「山形ガイドマップ」では「山寺」を「야마데라 (やまでら)」、「立石寺」を「릿샤쿠지 (りっしゃくじ)」で記していた。日本語では、「寺」が「데라 (でら)」「지 (じ)」と訓読・音読されても、それが寺であることが分かる。しかし、例えば英語で「山寺」を「yamadera」、「立石寺」を「Rissyakuji」にしてしまうと、日本語の知識がない外国人ははたして「dera」「ji」が寺を意味することなど分かるだろうか。韓国語でも同じように、「야마데라 (やまでら)」「릿샤쿠지 (りっしゃくじ)」という表記だけでは、「데라 (でら)」「지 (じ)」が何を意味するのか分からない。あるいは、それが寺であることは分かっても、「데라 (でら)」が正しいのか「지 (じ)」が正しいのか不思議に思うはずである。したがって、意味が重複しても寺を意味する「절」を加え、「山寺」を「야마데라 절」、「立石寺」を「릿샤쿠지 절」と表記しなければならない。

III. 誤字・脱字

誤字・脱字の問題は、先に述べた韓国語表記法とともに、今回の調査で最も多くの比率を占め、かなり深刻な状況であるといえよう。本稿の紙面は限られているので、それら全て



【図1】 松島海岸駅前の看板

列挙することはできないが、いくつか代表的な例を紹介してみよう。



【図2】 仙石線の「あおば通駅」行きの看板



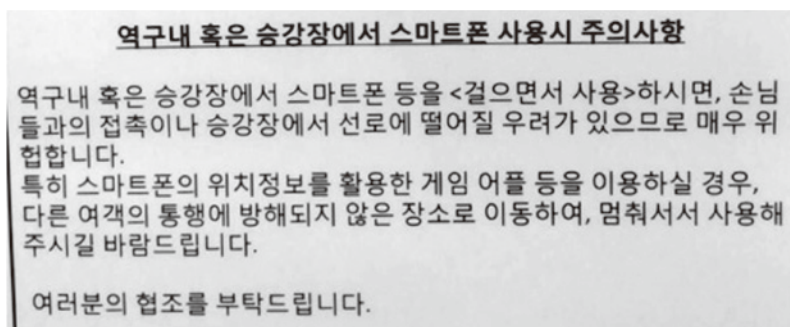
【図3】 東西線の電光掲示板

【図2】は仙石線の「あおば通駅」行きの看板であるが、「あおば通駅」は「아오바드오리역」と表記すべきところを「아오바드오리역」と誤った表記になっている（第II章で述べたように、ここでも長音は表記しないという決まりは守られていない）。また、東西線「八木山動物公園」行きの電光掲示板を見ると、「야기야마 동물공원행」となっているが、「動物」を意味する「동물」が誤って「동불」と表記されている。確かに「도」と「드」、「물」と「불」はどちらも綴りが似ているので間違いやすいが、日本語で「あ／め／ぬ」、「ね／わ／れ」、「ン／ソ」は形が似ているからと、間違っ使われているものと同じである。

<“다테”문화> 매력발신 추진사업 실행위원회

【図4】 『伊達』文化』魅力発信推進事業実行委員会による宮城県観光パンフレット

『伊達』文化』魅力発信推進事業実行委員会では「마사무네가 키웠던 “다테” 문화（政宗が育てた『伊達』文化）」という題名の宮城県観光パンフレットを刊行しているが、この資料では、「多様な色彩で」という表現について、「다양한 색채로」にすべきところを「다양한 색체로」とするなど多くの誤字・脱字が見られた。その中でも【図4】で引用したように、編纂者についての情報で、『伊達』文化』の「文化」に当たるところについて、「문화」と表記されているが、これは「문화」の誤字である。



【図5】 松島海岸駅の「駅構内やホームでのスマートフォン使用時の注意事項」

最後に、【図5】の松島海岸駅にある「駅構内やホームでのスマートフォン使用時の注意事項」の看板を見てみよう。ここには誤字・脱字だけでなく、日本語独特の文法を無理やり韓国語に翻訳した部分もあるので、合わせて紹介する。まず、2行目から3行目にかけて、「매우 위험합니다 (とても危険です)」とあるが、「위험」は「매우 위험합니다」の誤字である。また、5行目から6行目にかけて、

다른 ①여객의 통행에 방해되지 않은 장소로 이동하여, 멈춰서서 사용해 주시길 ②바랍니다

(他の ①旅客の通行の妨げにならない場所に移動して、止まって使用して下さるようお願い申し上げます)

と書かれている。ここで、①を見ると、「여객 (旅客)」という単語はもちろん韓国語にはあるものの、この場面で使用するのは不自然で、「승객 (乗客)」または「여행객 (旅行客)」にしたほうが相応しい。また、②の「바랍니다」も明らかな誤訳である。これはおそらく「お願い申し上げます」を韓国語に翻訳する際、「お願い (바람)」に「申しあげます」の「あげます (드립니다)」を繋げて直訳したためであると考えられる。したがって、「부탁드립니다」にするか、あるいは「바랍니다」にすべきで、上記の看板の内容を正しい表現に訂正すると、「다른 승객의 통행에 방해되지 않은 장소로 이동하여 멈춰서서 사용해 주시길 부탁드립니다」のようになる。

IV. 母国語の干渉

1. 日本式語彙を無理やり韓国語に直訳したもの

【図6】は「仙台シティーガイドブック」に載っている「うまい鯨勘名掛丁支店」についての説明で、その全文を引用すると次の通りである。

좋은 소재만 고집하여, 센다이나 치쿠치의 신선한 어패류를 시장에서 직접 구매하고 있습니다. 생선초밥은 일관 70엔 부터로, 리즈너블.

【図6】 仙台シティーガイドブックの「うまい鯨勘名掛丁支店」

좋은 소재만 고집하여, ①센다이나 치쿠치의 신선한 어패류를 시장에서 직접 구매하고 있

습니다. 생선초밥은 ②일관 70 엔 부터로, ③리즈너블.

(良い素材だけに拘り, 仙台やちくちの新鮮な魚介類を市場から直接購入しています。寿司は一貫 70 円からで, リーズナブル。)

上記の翻訳を見ると, ①で魚を仕入れたところについて「仙台やちくちの新鮮な魚介類」となっているが, この「ちくち」という単語が何のことを指すのか全く意味が分からない。なぜこのような訳になったのかを考えてみると, おそらく翻訳者は「築地(つきじ)」という地名を知らず, 「築(ちく)」「地(ち)」と音読みし, それをそのまま「치쿠치(ちくち)」と表記してしまったのではないかと考えられる。

次に, ②の「일관 70 엔 부터로 (一貫 70 円からで)」について検討してみよう。日本では寿司を数える単位は「貫」であるが, 韓国は「접시(皿)」である。また, 日本語で数字を数える時, 「いち/に/さん」「ひとつ/ふたつ/みっつ」と漢数字と固有語に分けて表現するように, 韓国語の数字も「일/이/삼(イル/イ/サム)」だけでなく, 「하나/둘/셋(ハナ/ドゥル/セツ)」と漢数字と固有語は区別して使われる。この場合, 寿司の個数を表すのに「일관(一貫, いっかん)」となっているが, 「一皿(ひとさら)」を意味する「한 접시」にすべきである。また, 「부터로」はおそらく日本語の「からで」を直訳したもので, 起点を表す「から」と, 手段や方法, 資格, 原因などを表す「で」をそのまま結び付けた不自然な訳になっている。この場合, 「로(で)」を削除し, 「한 접시 70 엔 부터 (一皿 70 円から)」にすべきである。

最後に, ③の「리즈너블(リーズナブル)」は「安い」「手ごろな価格」を意味する日本語の「リーズナブル」をそのままハングルに変えたものである。しかし, これは韓国では使わない単語なので, 日本語を知らない韓国人にとっては, 何のことを意味するか分からないため, 値段が安いという情報は伝わらない。手頃な価格であれば「적당한 가격」, 安い価格であれば「싼 가격」に訳すべきであろう。

同じく, 「仙台シティーガイドブック」に載っている「しゃぶ禅」について検討してみよう。

일본정원을 떠오르게 하는 분위기 속에서, 일본요리의 하나인, 샤브샤브나 스키야키를 맛볼 수 있습니다. 샤브샤브·스키야키 어느 쪽이던 무제한 먹기 코스 (4900엔)가 인기.

【図7】 仙台シティーガイドブックの「しゃぶ禅」

【図7】の説明の2行目から3行目にかけて、「샤브샤브・스키야키 어느 쪽이던 무제한 먹기 코스 (4900 엔) 가 인기 (しゃぶしゃぶ, すき焼きどちらも無制限食ベコース (4900円) が人気)」と書かれている。同じ資料の「工艺品・特産品」の欄で「牡蠣」を紹介するところにも「제철인 겨울에는 마츠시마 등에서 무제한 먹기도 즐길 수 있습니다 (牡蠣が旬の冬には、松島などで無制限に食べることも楽しむことができます)」と書かれている。

ここで問題になるのは「食べ放題」の韓国語訳として、「무제한 먹기 코스 (無制限食ベコース)」または「무제한 먹기 (無制限に食べること)」に訳されていることである。もちろんこれはかなり不自然ではあるが、意味自体は通じないわけではない。しかし、韓国語にも「食べ放題」「お代わり自由」に対応する単語として、「무한 (無限)」と「리필 (refill)」の合成語である「무한리필 (ムハンリピル)」という言葉があるので、こちらを使ったほうがより自然で韓国語らしい文章になると思われる。

次に紹介する【図8】は、山形県で有名な肘折温泉の紹介パンフレット「야마가타 히지오리 온천 (山形肘折温泉)」の一部である。

히지오리 온천 최고의 묘미는
유카타 차림으로 돌아다니면서 즐길 수 있는 바깥 공동목욕탕입니다.

【図8】 山形県肘折温泉パンフレット

下記の引用文は、1,200年以上も前に発見された、由緒ある温泉であることを強調しながら、

히지오리 온천 최고의 묘미는 유카타 차림으로 돌아다니면서 즐길 수 있는 바깥공동목욕탕입니다.

(肘折温泉での最高の醍醐味は、浴衣姿で歩き回りながら楽しむことができる外共同沐浴湯です)

と説明されている。ここで、「바깥공동목욕탕 (外共同沐浴湯)」という単語は、韓国では使わない単語だが、「바깥 (外)」で「공동 (共同)」に「목욕 (沐浴)」をする「탕 (湯)」ということから「露天風呂」を連想し、最低限の意味は通じる。しかし、韓国では「露天風呂」に対応する「노천탕 (露天湯)」という単語があるので、こちらのほうが正しいと思われる。

その他にも、肘折温泉のパンフレットだけでなく、あらゆる資料で「旅館」について「여관 (旅館)」と訳されているものがたくさん見受けられた。韓国での「여관 (旅館)」とは、日本で考える「旅館」とは全く違う宿泊施設で、最も値段が安くみすばらしいところを意味

する。したがって、お客様を「旅館」に泊ませることをそのまま直訳して伝えると、もてなしの意味ではなく、無視をする失礼な意味として誤解される場合もあるので注意しなければならない。

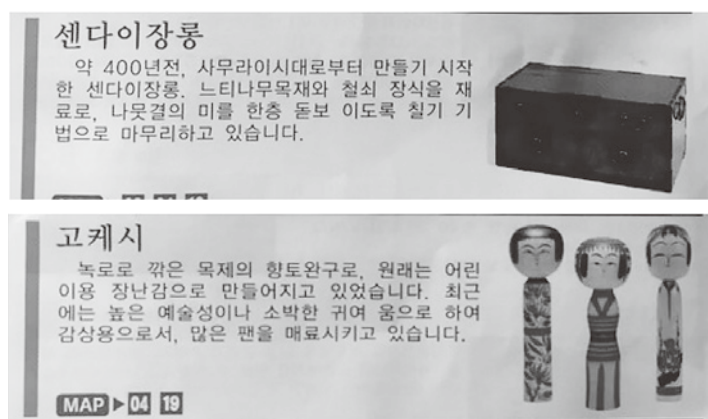
2. 日本式文法の直訳

① 状態・結果を表す「～ている」を進行の意味で翻訳

ある言語の A という語彙・文法・表現などは、他の言語の A と必ずしも一致するものではなく、A' で表現するか、全く別の表現である B にしなければならない場合がある。しかし、母語の影響により、「A = A」で表現してしまうことを「母国語の干渉」という。この「母国語の干渉」による間違いのうち、日本人の韓国語学習者に最もよく見られるものの一つとして、「～ている」の誤った使い方を挙げるができる。

日本語の「～ている」は大きく分けて「進行」と「状態・結果」の2つの意味を持つのに対し、韓国語の「～고 있다」は一部の例を除いて「進行」の意味のみを持つ。したがって、「赤いズボンを履いている」という文において、現在ズボンを履いている最中であることを意味するなら「빨간 바지를 입고 있다」と表現するが、ズボンを履いた状態を表す場合は、「빨간 바지를 입고 있다」というように過去形などの別の言い方で表現すべきである。一方、現在の韓国語教育では、初級段階で「～ている」を「進行」の意味を表す「～고 있다」に対応するものとして教えている。ところが、その後で「状態・結果」の表現が出て来ると、初級で学んだ「進行」の意味としての「～고 있다」に引きずられてしまい、「状態・結果」の時にも「進行」の意味を持つ「～고 있다」で訳してしまうという問題が生じる。

その具体的な例として、「仙台市ガイドブック」に載っている仙台市の伝統工芸品についての説明について検討してみよう。



【図9】「仙台市ガイドブック」の「仙台箆筒」と「こけし」

上は「仙台箆筒」についての説明で、下は「こけし」についての説明だが、それを引用すると次の通りである。

○센다이장롱

약 400 년전, 사무라이시대로부터 만들기 시작한 센다이장롱. 느티나무목재와 철쇠 장식을 재료로, 나뭇결의미를 한층 ① 돋보이도록 칠기 기법으로 ② 마무리하고 있습니다.

仙台箆筒

約 400 年前, 侍の時代から作り始めた仙台箆筒。けやき木材と金具装飾を材料として木目の美しさが一層引き立つよう、漆器技法で ② 仕上げています。

○고케시

녹로로 깎은 목재의 향토완구로, 원래는 어린이용 장난감으로 ③ 만들어지고 있었습니다. 최근에는 높은 예술성이나 소박한 ④ 귀여움으로 하여 감상용으로서, 많은 팬을 매료시키고 있습니다.

こけし

ろくろで削った木製の郷土玩具で、本来は子供用の玩具として③作られていました。最近では高い芸術性や素朴な可愛さで、観賞用として多くのファンを魅了しています。

まず、本題に入る前に、東北地域のみならず日本全国のあらゆる資料の韓国語訳に関わる問題について指摘したい。それは、①「돋보이도록 (引き立つよう)」と④「귀여움으로 (可愛さで)」のように、分かち書きが正しくなされていないものが、あまりにも多いということである。英語で例えれば、「God is now here」にすべきところを「God is no where」にしたようなもので、もちろんこのような極端な例は見当たらなかったものの、分かち書きを間違えることによって、不正確な情報を伝えてしまったり、誤解を招く可能性が高いので、注意しなければならない。

それでは、本題に戻り、②の「마무리하고 있습니다 (仕上げています)」は、現在仕上げている最中であるという現在進行形の文章で、③の「만들어지고 있었습니다 (作られていました)」は過去に作られている最中だったという過去進行形で訳されている。これは②③の「～ている」が「状態・結果」の意味を持つにも関わらず、「進行」を意味する「～고 있다」に訳されたために生まれた不自然な表現で、それぞれ②「마무리하였습니다」と③「만들어졌습니다」のように過去形で訳すべきである。

これと同じような例で、温泉の脱衣場での注意事項として、「미끄러지기 쉬워지고 있으므로 주의해 주십시오 (滑りやすくなっておりますので、ご注意ください)」という看板が立て

られているのをよく見かける。これも大変不自然な文章で、「滑りやすい」の「～やすい」を「～をするのが簡単だ」, 「～くなる」を「変化」, 「～ておる」を「進行」の意味として捉え、それを韓国語に直訳したためであると思われる。この場合は、「미끄러지기 쉬우므로 주의해 주십시오」と訳すべきである。

②「名詞+する」文の直訳

韓国語は、「운전하다 (運転する)」「공부하다 (勉強する)」「운동하다 (運動する)」のように動作主が何かを直接行う時は、日本語と同じように「名詞+하다 (する)」の形を使う。しかし、日本語の場合、「名詞+する」の使用範囲が韓国語より広く、韓国語では別の言い方をする表現においても「名詞+하다 (する)」の形で直訳しているところを指摘したい。

それでは、下記の文章について考えてみよう。

○山形県の肘折温泉のパンフレット

먼 옛날 ① 팔꿈치를 골절한 노승이 이곳의 온천에서 상처가 나았다는 일화가 전해지는
히지오리 온천

(遠い昔, ① 腕を骨折した老僧がこの温泉で傷が治ったという逸話が伝えられる肘折温泉)

○仙台市ガイドブック「牛たん炭焼利久中央通り店」

센다이 시내에 20 점포 이상을 ② 전개하는 인기점. 두꺼운 살에 부드러운 ③ 규탄은, 육회, 제철 요리 등의 메뉴도 풍부

(仙台市内に20店舗以上を②展開する人気店. 分厚くて柔らかい③牛タンは, ュッケ, 旬の料理などのメニューも豊富)

まず、①の「腕を骨折した老僧」を見ると、韓国語は先述した通り、動作主が何かを直接行う時に「名詞+하다 (する)」形式を使う場合が多い。したがって、この文章は老僧が意図的に自分の骨を折ったと誤解を招くおそれがある。韓国語では、「팔꿈치가 부러진 노승 (腕が折れた老僧)」にするか「팔꿈치가 골절된 노승 (腕が骨折された老僧)」にするのが正しい訳である。また、②の引用文は、日本語で「展開」という場合は「広く広げる」こと以外に「店舗を持つ」の意も持っている。したがって、「20店舗以上を展開する」といえば「20店舗以上を持っている」の意味になるが、韓国語で「전개하다 (展開する)」は「広く広げる」の意味しか持たないので、このまま直訳すると意味が分からない文章になってしまう。したがって、「20 점포 이상을 가지고 있는 인기점 (20店舗以上を持っている人気店)」とするの

が適切である。ついでに、③について言えば、「규탄은 (牛タンは)」は主題を表すため、次に続く文章は不自然である。「은 (は)」を削除すべきであろう。

その他にも、仙台市の「水道料金・下水道使用料の減免について」の資料の中に、

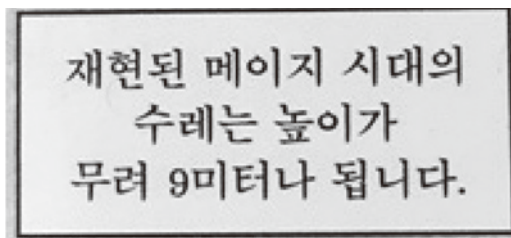
센다이 시외에 전거하거나 과세세대가 됐다 등의 경우, 감면이 종료하므로 반드시 아래 <문의처> 에 연락하시기 바랍니다

(仙台市外に転居したり課税世帯になったなどの場合、減免が終了しますので、必ず下記の<問い合わせ先>にご連絡ください)

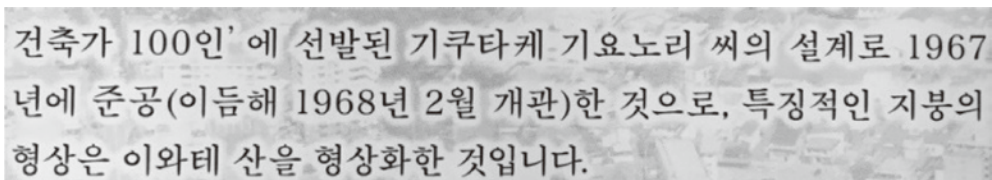
という文章がある。下線を引いたところは日本語の「転居する」「終了する」を直訳したもののだが、「전거하다 (転居する)」は韓国では使わない言葉であるため意味が通じない。したがって、「이사하다 (引っ越す)」にするのが適切である。また、「종료하므로 (終了しますので)」は韓国語では「誰かが意図的に何かを終わらせる」の意味を持つので、「종료되므로 (終了されるので)」にすべきである。

③連体修飾文の直訳

日本語と韓国語は、語順はほぼ同じであっても、「日本語に比べ、韓国語は主語を文頭に置こうとする傾向がより強い点、文を構成する際、韓国語は日本語に比べ、主語をより明示的な形で表そうとする」ということが金恩愛(2013)によって指摘されている。これを念頭において、【図10】【図11】のもりおか歴史文化館の資料を検討してみよう。



【図10】 山車についての説明



【図11】 もりおか歴史文化館についての説明資料

【図 10】は山車の模型についての説明で、「재현된 메이지 시대의 수레는 높이가 무려 9 미터나 됩니다 (再現された明治時代の山車は、高さがなんと 9 メートルにもなります)」と書かれている。もちろん、下線を引いたところは、韓国人としては意味が分からなくはないが、文頭の連体形「재현된 (再現された)」は日本式の文法を直訳したものである。したがって、韓国人にとってより自然で違和感のない表現にするならば、「수레는 메이지 시대의 것을 재현했으며 (山車は明治時代のものを再現しており)」にするか、「메이지 시대의 수레를 재현했으며 (明治時代の山車を再現しており)」のような文章にしたほうが良い。

【図 11】はもりおか歴史文化館の建物についての説明資料で、下記の引用文について検討してみよう。

건축가 100 인에 선발된 기쿠타케 기요노리 씨의 설계로 ① 1967 년에 준공 (이듬해 1968 년 2 월 개관) 한 것으로, ② 특징적인 지붕의 형상은 이와테 산을 형상화한 것입니다.
(建築家 100 人に選ばれた菊竹清訓氏の設計で ① 1967 年に竣工 (翌年 1968 年 2 月開館) したもので, ② 特徴的な屋根の形状は岩手山を形象化したものです)

まず、①は先程検討した日本語の「名詞+する」を直訳したもので、韓国語では「준공한 (竣工した)」より「준공된 (竣工された)」にした方が自然である。②の文章は屋根 (模型) の形の特徴を説明した文章で、「특징적인 지붕의 형상 (特徴的な屋根の形状)」は日本語で好まれる連体修飾文を直訳したものである。また、「형상」は「形状」を直訳したもののだが、この単語の使い方を含め、例文②は全体的に不自然である。したがって、「이와테 산을 본떠서 만든 지붕의 모양이 특징입니다 (岩手山を象って作った屋根の形が特徴です)」としたほうが自然であろう。

④助詞の誤用

その他にも、日本語式の文法を韓国語に直訳した例は数多くあるが、最後に助詞の例を紹介しよう。「The Sendai Museum Experience」には、仙台市にある科学館・天文台・博物館・動物園などの情報が掲載されているが、その中に次のような文章がある。

도호쿠 지방 최대 도시의 하나로 독자의 역사와 다양한 지리적 특징을 가진 센다이는…
(東北地方最大の都市の一つで, 独自の歴史と多様な地理的特徴を持つ仙台は…)

ここで、「독자의 역사」は「独自の歴史」を韓国語に直訳したものである。しかし、この

ままでは、韓国人の読者は理解はできても一瞬首を傾げるはずで、全体的な意味を把握するのに時間がかかると思われる。なぜなら、韓国語で「독자의 역사」は、「読者の歴史」「独子（一人っ子）の歴史」のように誤読する可能性があるからだ。もちろん、次の「多様な地理的特徴…」とある全体的な文脈から、「読者の歴史」「独子の歴史」と理解することはないと思われるが、可読性のいい文章にするためには、「독자적인 역사（独自の歴史）」にした方が良く思われる。

V. パッチムの有無による助詞の使い分けの誤用

日本語では「～る」で終わる動詞に「～ます」がつく場合、「～る」の前の母音の種類によって活用が異なる。例えば、「ある」「売る」「取る」のように「る」の前の母音が「a/u/o」なら「～ます」がつくと、「る」が「り」に変わり、「あります」「売ります」「取ります」になる。一方、「見る」「食べる」のように「る」の前の母音が「ie」なら「る」を外して「ます」が付き、「見ます」「食べます」になる。ここでは、日本人旅行者が外国で、「見ります」「食べります」というような文章に接するのと似たような事例を紹介する。

韓国語では、直前の文字にパッチムという子音の有るか無いかによって、助詞を使い分けなければならない。例えば、先ほど紹介した宮城県観光パンフレットでは、「센다이 번를 만든 다테 마사무네에 대해서는 (仙台藩を作った伊達政宗については)」という文章がある。ここで、日本語の「～を」にあたる韓国語の助詞として、直前の文字にパッチムがある場合は「～을」を使い、無い場合は「～를」を使うという決まりがある。この文章の場合、「번」にはパッチムが付いているので、「을」を使わなければならないが「를」が使われている。

次に仙台観光国際協会多言語情報誌の「病院のかかり方」を見てみよう。

진찰을 받을 때에 필요한 것

진료일, 진찰 시간의 확인

의료기관에 따라 진료일나 진찰 시간이 다릅니다. 평일에 휴진하는 의료기관도 있습니다. 우선은 전화로 확인합시다.

【図 12】 仙台観光国際協会多言語情報誌の「病院のかかり方」

진찰을 받을 때에 필요한 것

진료일, 진찰 시간의 확인

의료기관에 따라 진료일나 진찰 시간이 다릅니다. 평일에 휴진하는 의료기관도 있습니다.

우선은 전화로 확인합니다.

診察を受ける時に必要なもの

診察日, 診察時間の確認

医療機関によって, 診療日や診察時間が違います。平日でも休みの医療機関があります。まずは電話で確認しましょう。

ここで注目したいところは, 下線部の「や」に当たる韓国語の助詞である。この時, 韓国語では「~이나/~나」を使うが, 「~이나」は直前の文字にパッチムがある時に使われ, 「~나」が使われるのは直前の文字にパッチムが無い場合である。上記の文を見ると「진료일(診察日)」は最後の文字にパッチムがあるため「진료일나」ではなく「진료일이나」とするのが正しい。

VI. 文化的用語の翻訳の問題

「山形ガイドマップ」を見ると, 松尾芭蕉について下記のような説明が見られる。

○① 하이쿠를 짓는 ② 마쓰오 바쇼가 들렀을 때에 읊은 시 「③ 고요한 바위에 스며드는 매미의 소리」

(① 俳句を作る ② 松尾芭蕉が寄った時に詠んだ詩「③ 閑かさや岩にしみ入る蟬の声」)

○① 하이쿠를 짓는 ② 마쓰오 바쇼의 기행문 「오쿠노 호소미치」 에 관련되는

(① 俳句を作る ② 松尾芭蕉の紀行文「奥の細道」に関連する)

まず, ② では第 II 章で指摘した外国語表記法に従えば, 「마쓰오」と統一して表記するのが正しい。次に, ① の「하이쿠를 짓는 (俳句を作る)」について検討してみると, この箇所は日本語版にはない。おそらく, 日本人なら誰もが松尾芭蕉については知っているはずだが, 韓国人にとっては誰なのか分からないので, 「하이쿠를 짓는 (俳句を作る)」という説明が付け加えられたものと考えられる。しかし, 「짓는」は「(文章を) 作る」以外にも「(ご飯を) 炊く」「(建物を) 建てる」「(名前を) つける」などのたくさんの意味を持つ。また, 韓国人にとって「하이쿠 (俳句)」という言葉の意味が分からないと, 松尾芭蕉は料理を作る料理人なのか, 建物を建てる大工なのか, 名前を付ける人なのか, 一度読んだだけでは理解しにくく, 「기행문 (紀行文)」のところでやっと意味が推測できるようになる。もし, 補足説明が必要なら, 「하이쿠라는 시의 시인 마쓰오 바쇼 (俳句という詩の詩人松尾芭蕉)」にするか,

俳人を意味する「하이쿠 시인 (俳句詩人)」という言葉を入れたほうが良いと思われる。

更に欲を言えば, ③の「閑かさや岩にしみ入る蝉の声」の翻訳はもちろん間違っていないが, 世界の言語の中で俳句を最も日本語に近く翻訳出来るのは韓国語であるという点から述べると, 少し物足りない訳である。つまり, 「蝉の声」のところが「매미의 소리 (蝉の音)」と訳されているのを擬人化して「매미 목소리 (蝉の声)」にし, 俳句の最も大きな特徴である5・7・5の音律と切れ字を生かして, 「고요하구나 바위에 스며드는 매미 목소리」とすれば, 韓国人が詠んでも日本の俳句の情趣がそのまま感じられる韓国式俳句と言えるのではないだろうか。

以下は, 2種類の盛岡観光案内パンフレットの中で, 盛岡名物「じゃじゃ麺」について説明しているものである。



【図13】 盛岡観光案内パンフレットの「じゃじゃ麺」についての説明

盛岡じゃじゃ麺は, パンフレットに書かれた説明の通り, 平ったいどんの麺に炒めた肉が入った味噌を載せ, 好みによってニンニク・生姜・辣油・酢などをかけ, みじん切りしたネギときゅうりを混ぜて食べるもので, 最後に少しだけ残して卵とスープを入れて食べる。これは本来, 中国北部から来た「炸醬麵」が日本式に変わったもので, 韓国にも炸醬麵の影響を受けた「자장면 (チャジャン麵)」という料理がある。しかし, 韓国の「자장면 (チャジャン麵)」は, 盛岡じゃじゃ麺と形は少し似ているかもしれないが, 春醬と言われる黒い色の味噌を使ったもので, 味も違い, 食べ方も違うほぼ別の料理である。

韓国には存在しないじゃじゃ麺を翻訳する際, 【図13】の左のように意味を考慮せずに音読した「자자면 (ジャジャ麵)」と表記すべきであろうか, あるいはじゃじゃ麺とは異なるものの, 似たような食べ物として韓国式の「チャジャン麵」に当てはめて「자장면 (チャジャン麵)」と表記すべきであろうか。あるいは「모리오카식 자장면 (盛岡式チャジャン麵)」と表記すべきであろうか。筆者はどちらでも良いと思うが, 最低限表記のみは統一しなければならないと考えている。同じ食べ物に対して, ある資料では「자자면」と表記し, ある資料では「자장면」と表記した場合, それを読む人は別々の料理として誤解する可能性がある

からである。

最後に、もりおか歴史文化館の料金案内表について触れておきたい。

	개인
초등중학교	100엔
고등학교	200엔
일반	300엔

【図 14】 もりおか歴史文化館の料金案内表

これを見ると「초등중학교（初等中学校）」の料金が 100 円になっているが、韓国には「初等中学校」という制度がない。韓国の教育制度では「초등학교（初等学校）」「중학교（中学校）」と言うので、そこから「학교（学校）」を外して、「초등중학교（初等中学校）」という用語を使用したのではないかと考えられる。もちろん、これでも最低限の意味は通じるが、韓国では小学校と中学校を合わせて、「초·중학교（初·中学校）」という言い方をするので、そのように訂正する必要がある。

VII. おわりに

下に紹介する 2 つの資料は、東北地域だけでなく、全国のあらゆる地域で見られる不自然な訳の代表的なものである。これまで、主に宮城県・岩手県・山形県の観光資料において見られる誤訳について検討してきたが、下記資料の問題点を紹介し、その原因及び改善に向けての提言を述べることによって本稿の結びとしたい。



【図 15】 空港の逆戻り禁止の看板



【図 16】 東京渋谷のごみ箱

【図 15】の看板は、仙台空港のみならず成田空港・羽田空港などの国際空港に見られる標識である。矢印に斜線が入っているのを見れば、逆戻り禁止を意味することは誰にでも分かるが、そこに書かれている韓国語は不自然極まりない。ここで「역류금지」という言葉は「逆流禁止」の意で、韓国語の「역류」は日本語の「逆流」と同じように「元の方向から遡る水の流れあるいは現象」を意味する。人がもとに戻ることを意味する言葉ではないのだ。また、【図 16】は筆者が東京の渋谷で直接撮影したゴミ箱の写真である。「飲み残し」の訳文として、「마셔 남겨」と書かれているが、これでは「飲め、残せ」という意味になり、本来の意味とは全くかけ離れている。翻訳サイト「エキサイト翻訳」²に「飲み残し」を入力すると、その韓国語訳として、「마셔 남겨」が出て来ることから、翻訳サイトの訳をそのまま使ったものと思われる。

どうして、韓国人なら誰でも首を傾げるような標識が立てられ、そのまま放置されているのだろうか。第一の原因として、自動翻訳機で翻訳したり、日本人が翻訳する場合、最低限のネイティブチェックを行っていないことが挙げられる。二つ目の原因としては、韓国人が翻訳する場合、地名や人名、日本の文化についての知識が不足しているからである。極端な例として、油谷利幸（2005）でも指摘しているように、「鳥居」の「居」を住居の意味に誤解し、「까마귀 집（カラスの家）」と誤訳してしまうケースもある。したがって、韓国語が出来る日本人、そして日本語が出来る韓国人が、一緒に相談をしながら翻訳をする必要があるが、それが欠けていることが一番大きな原因である。更に欲を言えば、お互いの言語が出来る場合、母国語の干渉を見逃してしまうおそれがある³。したがって、日本語が全くできない韓国人が読んでも理解できるような自然な内容なのか、もう一度チェックをする必要がある。最後に、日本にはたくさんの韓国人が旅行に来たり、定住したりしている。それなのに、どうして韓国人の誰も問題提起をしないのであろうか。至るところに誤訳が溢れているので「これくらいはマシだ」と思って、最初から指摘するのを断念したのだろうか。意味さえ通じればそれで良いと思って我慢しているのだろうか。

本稿では、宮城県・岩手県・山形県の3つの県を中心に検討したが、今後は青森県・秋田県・福島県にも調査対象を拡大していきたい。そうすることによって、韓国人が東北地域をより正しく、より深く理解し、友好的な関係構築に向けて少しでも役立つことができればと思う。

² <https://www.excite.co.jp/world/korean/> (検索日：18.12.01)

³ 例えば、韓国語の「위화감（違和感）」は日本語の「違和感」とは意味領域が違うが、日本語が出来る韓国人は日本語の影響によって、「위화감」について間違った使い方をされるケースが見られる。

<参考文献>

- 李忠均（2010）「日韓両国語におけるアスペクト形式の様相に関する研究—翻訳書を中心に—」『日本語学論集』第6号，東京大学大学院人文社会系研究科国語研究室
- 井上優・生越直樹（1997）「過去形の使用に関わる語用論的要因—日本語と朝鮮語の場合—」『日本語科学』第1巻，国立国語研究所
- 生越直樹（1997）「朝鮮語と日本語の過去形の使い方—結果状態形との関連を中心に—」『日本語と朝鮮語』下巻，国立国語研究所編，くろしお出版
- 金恩愛（2013）「日本語と韓国語における主語の現れ方について」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第12号，福岡県立大学人間社会学部
- 油谷利幸（2002）「誤訳に基づく日韓対象研究」『言語文化』第5号，同志社大学言語文化教育センター
- （2005）『日韓対照言語学入門』，白帝社
- JTB 総合研究所 <https://www.tourism.jp/tourism-database/stats/inbound/>（検索日：2018.11.16）
- 翻訳サイト「エキサイト翻訳」 <https://www.excite.co.jp/world/korean/>（検索日：18.12.01）